

祭り その1 「枕太鼓」

野口幹夫

祭りで胸が高鳴ったのは、我が家の前をって行った「枕太鼓」を見た時です。阿倍王子神社の夏祭り行列でした。おそらく私が6歳の頃だと思います。大きなだんじり車の上に4人の若者が相対して枕に座り、頭に長い吹き流しのついた烏帽子をかぶっていました、そして大きな反り返る姿勢をして勢いよく、前に置かれた太鼓をどんと叩いていくのです。

この枕太鼓のだんじり車の前を、馬に乗って赤い面の猿田彦が先導していたように思います。何もかも忘れてしまう記憶力の貧弱な自分ですが、珍しく物凄く高揚した幼い時の思い出なのです。



(6歳ごろと推定するのは、その年が昭和16年でその12月から太平洋戦争が始まり、翌年からは祭りどころではなくなったと思うからです。)



その祭り行列は、阿倍野筋から西に折れて旭町の我が野口印刷所の前を通り、金塚小学校の前の坂を下り、千葉さんのはんこ屋さんの前を通り、飛田遊郭通りにぬけて行ったのだと思います。

安倍王子神社は我が家からは結構遠いので、今考えるとなぜあの祭り行列が我が家の前を通り過ぎたのか不思議です。でもその祭りの夜店に連れて行ってもらったよう



にも思いますので、氏神様と敬っていたように思います。ほかに大きな神社は近くにはないのです。

安倍王子神社は阿倍野筋をずっと南に下って行って松虫通りも越えて北畠に近いところにありました。その手



前に小さ



な安倍清明神社がありました。今でこそ「安倍清明」は平安時代の陰陽師として映画や漫画で有名になったため、今はこの神社の方が有名になりました。当時はさびれていたように思います。

一方この「安倍王子神社」は大きく盛
んでした。その名前の王子というのは
具体的に安倍一族の「王子」を表すの
ではありませんでした。平安時代から熊
野詣は有名で、京都から浪速を通り熊
野まで参杯するその熊野道がこの神社



の前を通っていたのです。その遍路さんたちのために、ところどころに休憩所が置かれ、そ
れを熊野神社の分霊社である九十九王子の一つとしたそうです。阿倍野にあった王子神社と
いうわけだったのです。

実は阿倍野で育ったのに知らなかったのですが、「阿倍野神社」は別にあったのです。こ
れは今も地名は北畠として残っていますが、建武中興に功のあった北畠親房一族を祭神と
した神社でした。明治十四年創建と新しく、当時国が忠君愛国精神を盛り立てようと建てた
神社でした。だから戦後はあまりはやらなくなっているわけです。

KOZOOM サロン28のテーマの「祭り」となったため、幼い日数少ない目くるめく思い
出を引き出し、次々いろいろと学び直しました。感謝です。